

リンゴの栽培管理の報告と今後の課題（2010年1月～2011年2月）

伊藤耕

教育・研究技術支援室 生物・生体技術系

概要

リンゴは病虫害の発生が多く、リンゴの産地である青森県や長野県に比べて気温が高い愛知県では病虫害が更に多く発生する。そのためこれらの地方に比べて栽培が難しい。

2008年12月から新たにリンゴの栽培支援の業務を行っているが、前期の栽培では病虫害の発生や、移植初年度であったことも影響してか、収穫が全くできなかった。しかし、今期の栽培では外観や食味など品質にいくらかの問題はあったものの収穫はできたので今後は薬剤散布の回数を減らしたり、灌水方法を工夫したりすることによって、より手間のかからない栽培管理方法を確立するとともに、施肥内容を見直すことにより食味の向上も図りたい。

本発表では今期の栽培で行った栽培管理過程と次年度以降の課題を紹介する。

なお、前期（2008年12月から2009年12月）、今期（2010年1月から2011年2月）とする。

1 栽培品種

ふじ、アルプス乙女、メイポール

2 今年度の栽培管理

2.1 病虫害防除

前期は病虫害の発生が多くほとんど収穫ができなかった。そこで今年度は収穫ができるように特に病虫害防除には力を入れて栽培管理を行った。その結果、今期の栽培では果実の品質に問題はあったものの収穫をすることができた。

防除には三菱農機の動噴、鉄砲式の噴口を用いて行い、4月から新梢の出始める7月上旬までは毎週1回、7月中旬以降10月上旬までは隔週1回薬剤散布を行い、実際に用

表1. 使用した薬剤と使用回数

殺菌剤	使用回数	殺虫剤	使用回数	殺ダニ剤	使用回数
アンビル	2	スミチオン	7	カネマイト	3
インダー	3	スプラサイド	1	総使用回数	3
ロブラール	1	ランネート	1		
ジマンダイセン	1	カスケード	5		
マネージ	3	ディプレックス	2		
バイコラル	1	DDVP	2		
ストロビー	3	総使用回数	18		
サンヨール	1				
パルノックス	4				
アンビル	2				
ロディー	1				
総使用回数	22				

いた薬剤とその使用回数は表.1 のとおりである。また、噴霧による防除とは別に冬季にゴマダラカミキリ、シコクアナアキゾウムシの防除としてガットサイド S を樹幹部に塗布した。

2.2 施肥および土の管理

3月に元肥、9月に追肥を行った。元肥・追肥ともに園芸化成（14-8-13）お呼び IB 化成 S1 号（10-10-10）を用いた。また、3月上旬に雑草防除もかねて果樹園の耕起を行った耕起には三菱農機製のティラーを用いて行った。また、1月の冬季剪定後に敷藁を敷いた。

2.3 定植

2010年1月下旬に、新たに14本のリンゴの定植を行った。上穴掘りには剣先スコップ、唐鍬、つるはしを用いて手作業で行った。

2.4 水遣り

梅雨明けから定期的に雨が降るようになる9月までは灌水作業を行った。灌水作業はホースで行った。

2.5 除草

4～9月の間は雑草が繁茂するたびに適宜除草作業を行った。除草作業は三菱農機製の刈払い機を用い、歯はナイロンコードを用いた。

2.6 剪定

剪定作業は通常落葉後の休眠期に行うが、本年は落葉後の1月に行った。剪定後の樹形は図.1のとおり。



図.1 剪定後のリンゴ

2.7 防鳥網かけ

昨期は果実一つ一つにたまねぎ袋を防鳥網の代わりとしてかけていたが、今期の栽培では、木全体に防鳥網をかけた。防鳥網は、6月下旬に掛け、収穫後にはずした。

3 今後の課題

3.1 病虫害防除

今期は一般的な栽培に比べて薬剤散布の回数が多かったので、次年度は病虫害の被害を抑えられる範囲で薬剤散布の回数を減らしたい。また、薬剤散布の総回数を減らすとともに、表. 1 の赤く塗った薬剤のように特定の薬剤に偏った防除にならないように使用薬剤のローテーションに注意したい。加えて、今年度はカミキリムシ等の幹、枝に食入する害虫の防除があまり行えなかったので、来年度は月に1~2回は行えるようにしたい。

3.2 施肥および土の管理

今年度は化学肥料に偏った施肥になってしまったので、堆肥、腐葉土、稲わら等も化学肥料と併せて施用するようにしたい。

3.3 水遣り

梅雨明け以降夏の間はほぼ毎日灌水作業が必要であり、ホースによる手灌水だと一回の灌水に1~2時間を要する。そこで、作業効率の向上のためにも灌水チューブまたはスプリンクラーの導入を検討したい。

参考文献

- [1] 熊代克己他, 果樹栽培の基礎, 農山漁村文化協会, 2000年3月, 147-172